

3 防災避難訓練の実施

(1) 第1回避難訓練

平成26年度は右記の日程にて、4回の防災避難訓練を実施した。

1回目の避難訓練は、中間考査の最終日に行った。良い意味でも、悪い意味でも、例年通りの形式での避難訓練であった。文部科学省指定の防災教育モデル実践校として、例年通りの訓練のままで良いのかという議論が始まった。

第1回	5月16日(金)
第2回	7月15日(火)
第3回	10月26日(日)
第4回	12月17日(水)

(2) 第2回避難訓練

① 避難訓練の計画

下図は、5月に行った1回目の避難訓練の職員向けの要項の一部である。本校では、生徒に指導する立場から、前もって日時・内容等をきちんときめていなければ準備をするのが難しいため、実施日時に火災が発生する時間まで設定されていた。予見不可能な災害に対する訓練としては、緊張感という点で改善の余地があった。

そこで、指導者の緊張感を高めるためにも、生徒のみならず、大半の教職員にとっても、これまで実施したことのない抜き打ち形式での訓練を企画した。抜き打ちとはいえ、7月7日(月)から7月15日(金)の2週間の期間を設定した。事前の職員会議で、各教職員に実施する期間、いずれかの授業内に行くこと、訓練する内容は説明したものの、管理職や生徒指導部の一部の教職員を除いて、実施日は知らせなかった。生徒にはクラス担任を通じ、取るべき行動の確認は前もって行った。抜き打ちでの実施であった。

平成26年度 第1回防災避難訓練実施要項(案)		生徒指導部
1 目的	安全かつ迅速に避難する要領を体得する。	
2 日時	5月16日(金)中間考査最終日 11:50~12:10	
	◎各自で靴を教室に持ち込んでおく	
3 日程	(1)訓練開始連絡:山本広	11:45 (TEL62-2303)
	(2)HRでの諸注意	11:50~11:55
	(3)避難行動	11:57~12:05
	(4)校長講評	12:05~12:10

(5)避難行動(晴天時)	
11:50	HRでの諸連絡 ①避難経路説明 ②諸注意 ・火災発生放送を冷静に聞き取る。 ・階段に近いクラスから避難する。 ・窓を閉めて、カーテンは開ける。 ・校舎内は走らない。外に出たらかけ足で集合する。 ・不必要な声を発しない。
11:54	第一発見者(廣戸)~生物教室の火災発見、職員室・事務室に連絡
11:55	警報(笠置)

② 避難訓練の結果

7月15日(火)14:20から、第2回避難訓練を実施した。訓練の様子の写真を見ると、きちんと身を守る行動が取れているようにも見えるが、完全に机の下に隠れていない生徒や教職員自身も教卓の中に身を隠す等の行動が取れていなかった。

他にも、初の抜き打ち実施だったせいか、教職員は生徒を机の下に身を隠す行動を取らせずに、地震発生の際で教室から避難をさせるといった避難誘導のタイミングを間違え、多数の生徒が避難中に私語をするなど、課題の多い訓練であった。

従来の訓練では、災害発生日時が知らされていたので、訓練の前に職員室で教職員同士が要項を読みながら確認する時間があったため、無難に誘導や避難指示を出すことが出来ていた。しかし、今回は抜き打ち形式だったためその確認を行うことができず、実際の災害発生



時には、教職員が正しい行動を取ることができないという問題が浮かび上がった。

訓練後、講評者である臼杵市役所防災危機管理室の板井室長から、「君たち、実際の災害が起きていれば、全員死んでいましたよ。」と非常に厳しいお言葉を頂く結果となった。

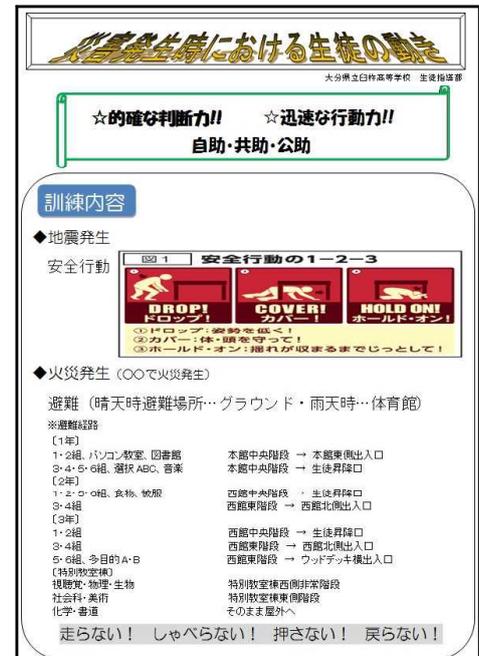
そこで、まず教職員から大いに反省をし、次回に向けて、どうすれば緊張感を持った訓練が実施できるのかを模索した。

③ 次回に向けて

そのような中、東日本大震災の被災地視察の引率を通して、宮城県立気仙沼向洋高等学校の存在を知った。東日本大震災では、同校は海に非常に近い学校でありながら、生徒、教職員一人も犠牲者を出さなかったというのを聞き、気仙沼向洋高等学校について調べてみた。学校のホームページで震災直後の報告書を閲覧できることが分かり、教職員、生徒に研修資料として使用することの許可を得た。

教職員には避難訓練の実施要項の一部として、この報告書を配布した。実際の状況、差し迫る危機感、先生方の勇気ある行動が伝わってくる報告書であるので、次回の避難訓練では、緊張感を持って臨んでくれることを期待した。

生徒へは、全員分を印刷して避難訓練の2日前に配布した。生徒の感想文からも大変印象深い内容であったことが伝わってきた。また、地震発生直後の行動マニュアル「ドロップ、カバー、ホールドオン」も同時に配布し、生徒の主體的な避難を期待した。



【災害発生時における生徒の動き】

※詳しくは「Ⅲ資料1(1)」を参照

(3) 第3回避難訓練

① 臼杵市総合防災訓練

3回目の避難訓練は、臼杵市総合防災訓練に合わせて設定した。

10月26日(日)、南海トラフ巨大地震および大津波が発生した想定のもと、防災情報の伝達訓練、住民避難訓練、炊出し訓練、孤立者救出訓練、避難所開設運営訓練等が市内各所で実施された。本校は、全校生徒で避難訓練に、1年生が避難所開設運営訓練に参加した。

午前9時、南海トラフ巨大地震の発生に伴い、大津波警報が発令された。本校の真上をヘリコプターが飛び、防災サイレンが鳴り響いているという状況の中、私語をしながら避難をしていた前回の姿はそこにはなく、生徒も教職員も歯を食いしばって上り坂を登り、高台へ避難していた。率先避難者としていち早く避難するばかりでなく、避難の途中で、リヤカーで避難する保育園児や保育士さんを自発的に助けることができた生徒もいた。

② 訓練の結果

市を挙げての大きかりな訓練であり、緊迫した状況が作られていたことはもちろんであるが、事前に配布した気仙沼向洋高等学校の震災直後の報告書も生徒、教職員に緊張感を持たせることに一役かったと考える。

3回目の避難訓練は2回目の失敗から大きく進歩することができたものの、次回の4回目の本校単独の訓練では、緊張感を持って行うことが出来るだろうかとまだまだ不安はあった。

(4) 第4回避難訓練

① 避難訓練に向けての準備

教職員の動きについて、従来の訓練でできたことが抜き打ち訓練でできなかったことから、そこに課題があるのではないかと考えた。

生徒は体育や芸術といった実技教科を除いて、基本的に自分の教室で授業を受けるが、教職員は時間によって、いる場所が違うことが一番大きな違いと分かった。

そこで、「災害発生時における職員の動き」を作成した。

作成時に工夫した点は、ラミネート加工をして年度初めに配布し、年度終わりに回収するようにし、次年度以降も使えるようにした。また、シートの管理をしやすくするため、配布する際にシリアル番号として教職員名簿の番号を一枚ずつ記入したことである。

もう一つの工夫点は、教室の呼び名である。

本校は毎年のようにクラス数が変わるため、教室配置が年度によって異なっていた。このことは、例えば、「〇年〇組の教室から出火」と放送があっても、校舎内のどの位置で出火しているから、どの経路で避難すればよいということ判断しづらくしている原因でもあった。

そこで、「本四5」＝「本（館）四（階）（側を流れる川から見て）5（番目の教室）」というように、年度が変わっても教室名が変わらない呼び方を決め、「職員の動き」の中に入れた。

状況・行動時	担任担当者	その他の職員
1 地震発生	◎震災の発生行動要領 ◎避難行動要領 ◎安全行動の1-2-3	◎職員【職員室】 ◎保健室 ◎図書室 ◎音楽室 ◎体育館 ◎校舎外 ◎校舎内 ◎校舎外 ◎校舎内 ◎校舎外 ◎校舎内
2 火災発生 〇〇教室で	◎火災発生時の対応 ◎避難行動要領 ◎安全行動の1-2-3	◎職員【職員室】 ◎保健室 ◎図書室 ◎音楽室 ◎体育館 ◎校舎外 ◎校舎内 ◎校舎外 ◎校舎内
3 避難（避難経路一斉放送時）	◎避難行動要領 ◎安全行動の1-2-3	◎職員【職員室】 ◎保健室 ◎図書室 ◎音楽室 ◎体育館 ◎校舎外 ◎校舎内 ◎校舎外 ◎校舎内

【災害発生時における職員の動き】

※詳しくは「Ⅲ資料1(2)」を参照

② 訓練の結果

事前にクラス担任へ教卓下のプリント入れ等を撤去しておくことを周知・徹底し、1回目の時に出来なかった教職員の教卓下への初期避難もできた。また、生徒には、机の脚を握ることも徹底させた。「災害発生時における職員の動き」等が功を奏し、4回目の訓練も高い緊張感を持って終わることができた。

その他、本校は電話機からの校内一斉放送ができないため、緊急時には誰でも校内放送を活用できるように、放送室使用マニュアルを作成し、学年ごとに試用した。

③ まとめ

回を重ねるごとに生徒の動きが良くなったと褒められ、教師冥利に尽きるが、生徒が変わったのも、教職員の意識が変わったことが一番大きいと考えている。これからも、この意識の高い状態を継続し、当たり前にしていくようにしていかなければならない。



【緊急時の放送について】

※詳しくは「Ⅲ資料1(3)」を参照